

「公民科教育法」における 模擬授業の実践研究

田代裕一

A Practical Study of "Classroom Teaching Exercises"
for the Lesson: "Methods of Civic Education"

Yuichi Tashiro

はじめに

近年、教育の質的向上への社会的要請が高まり、大学の教職課程においても学生の実践的指導力の基礎を養成することが強く求められてきている¹⁾。特に、教育実習の充実ということで、事前指導の段階での学習指導案作成の指導や模擬授業の充実が求められている²⁾。また、平成16年度に教職課程主任として筆者が行った、教育実習後の学生へのアンケートでも、教職課程の改善策として模擬授業の充実をあげているものが多かった。

一方、教師教育の研究として、模擬授業のやり方については開発が進められているが、具体的な指導過程の事実そのものが詳しく分析されることはほとんどない³⁾。しかし、模擬授業をより実効のあるものとするためには、たとえ面倒であっても、具体的な模擬授業の過程やその模擬授業についての協議の過程を記録し、分析することが不可欠なのである。そこで本稿では、筆者が担当した平成16年度後期の「公民科教育法Ⅱ」における模擬授業とその指導について受講生の許可を得てビデオ撮影し、文章記録を作成して分析することにした。この分析を通して、より望ましい模擬授業、およびその指導のあり方について探究していきたい。

ちなみに「公民科教育法Ⅱ」では、受講生全員(24名)が、自分の選択したテーマに即して10分の模擬授業を行っている。毎回、2名ずつ模擬授業を行い、その模擬授業について受講者は5分間でコメントを書き、1回の模擬授業につき受講者の約半分が、

自分のコメントを発表している(計15分間程度)。

1. 模擬授業の展開

今回、分析対象とした模擬授業のテーマは「冷戦の終結」で、2005年1月6日(木曜日)4時限目を実施された。以下、記録中の数字は授業での発言の通し番号で、Tは筆者(田代)、STは模擬授業担当者、その他は受講者を示す略号である。この模擬授業は評価できる点と課題と思われる点とが適度にあり、模擬授業の指導のあり方を考える事例として適切なものだと考えられた。なお授業で配布されたプリント資料は最後に掲載しているので参照されたい。

T1 それでは、始めて下さい。

ST2 よろしくお願ひします。今日の国際社会②となっているのが、流れの関係で、この前回は冷戦の残りとの途中までをやったという流れの上で、この授業を受けてもらえればいいと思います。それではですね、プリントのほうを見ていただきたいんですが、前回の復習というのがありますが、その前に本日のキーワードとして、本日のキーワードは冷戦体制の崩壊と多極化です。目標といたしまして、現在の世界状況が出来上がるきっかけとなった冷戦体制の崩壊と多極化について理解しよう、です。そして、冷戦体制の崩壊という本題に入る前に、まず冷戦ってということについて、まず、どういうものだったかを、それを前回の復習といたしましてやってみたいと思いますが、まず、なんとかを中心とした資本主義体制、西側諸国と、ソビエト社会主義共和国連邦、ソ連を中心としたなんとか体制、東側諸国の武力を用いない対立をなんという、ということなんです。いきなりなんです、質問してみたいと思います。①番に入るのは一体なんですか。じゃあ、お願いします。

A3 アメリカ。

ST4 はい一番はアメリカですね。アメリカ合衆国(板書する)。

ST5 それでは②番は何体制でしょうか。いちばんこちらの列の方。

B6 社会主義。

ST7 はい、社会主義(板書する)。その二つのグループですね、アメリカ合衆国を中心とした資本主義体制、これも書いてありますが、こちらのことを、よく、アメリカ合衆国を中心とした国のことを西側といいます、西側諸国というふうにいいんですが、さて、こちら側の方をなんと、ソ連を中心とした国のことを東側というんですが、この

二つの、この二つの武力を用いない対立のことをなんというか、ということなんですけど、じゃあ、これは真ん中の一番、後ろの方をお願いします。

C 8 冷たい戦争。

S T 9 冷たい戦争。冷たい戦争ですね、冷たい戦争といいます（板書する）。冷戦という言い方をする時もあります。この状態で、世界は20世紀の中ごろまで進んできたというところまでが前回のところとさせていただきます。

S T 10 それで今日やるのは、まず冷戦体制の崩壊というところからです。えー、ソ連、ヨーロッパと東ヨーロッパ、東欧、特に経済相互援助会議、コメコンと略されますが、これに関連していた、まあ、ソ連を中心とするグループ、社会主義体制の崩壊から冷戦体制の崩壊が始まります。それではですね、その理由として挙げられるものがいくつかあるんですけれども、まず西側、さっき出した、アメリカ合衆国を中心とした資本主義体制の情報が社会主義体制国家の中にも浸透したことが一つあげられます。そしてその他にも、その他の理由として（板書する）、その他の理由としてですけれども、個人のなんとかよりも国家利益を優先させる統制経済への不満というのがあるんですけれども、④番に書いてあるのはなんでしょうか、こちらの列の…はい。すいません、こちらから。

C 11 権利。

S T 12 権利。はい、それでけっこうです。ありがとうございます、権利。人権と書いてもいいかもしれませんが、一番の理由、一番上にあげておいてもらいますけど、個人の権利よりも国家利益を優先させしまっている、その体制への不満というのが二つ目あげられます。そしてもう一つの理由として、西側のなんとか体制と、東側のなんとか独裁体制の格差への強い不満というのがあるんですけれども、ちょっと⑤番は難しいんですが、なんとか国家体制という言葉がここに入るんですけれども、これは何かわかられるでしょうか。真ん中の列の一番前の方、この⑤番はおわかりになりますか。

D 13 えー、民主主義。

S T 14 民主主義。民主主義ではないんです。その中でも、もうちょっと別のものなんですけど、別のものじゃなくて、さらに発展させたものなんですけど。⑤番に入るのですね、⑤番に入るのは（板書する）、これは福祉国家体制という言葉が入ります。福祉国家体制という言葉が入ります。これは、まあ有名なところではスウェーデンとか、もしくはヨーロッパの各国、特に西ヨーロッパの国々、フランスとかドイツとか、あのあたりですけど、まあ教育サービスとか老後の心配ごととか、そういうことに国の責任をもっている、そういうものの体制に対して、その一方の東側というのはなんとか独裁

体制をしいていたとありますが、⑥番に入るのはなんでしょうか。こちらの列の、おわかりになりますか。

E 15 うーん。

S T 16 なんとか党という言葉が入るんですけれども。

E 17 …。

S T 18 いかがでしょうか。じゃあ、これはですね、共産党。共産党独裁体制という言葉が入ります（板書する）。さっき上にあげましたコメコンというグループに入っていて、名前は少しづつ異なるんですけれども、結果としては共産党とよばれるソ連をおさめていた大きな、仲間といいたいでしょうか、その人たちが独裁体制と呼ばれるものをしていた。その人たちだけが政治を続けるという、それに対する不満が。で、こういう動きがあった結果、ソ連や東欧諸国で民主化、そしてなんとかの導入を求めらるんですけど（板書する）、これはなんとか経済とよばれるものですが、はい、じゃあ。

F 19 市場経済。

S T 20 はい、市場経済。市場経済の導入（板書する）。そういうふうな動きが、求める運動が発生します。この市場経済というのは、資本主義体制に似たような体制にしてほしいという強い要望だと思いますけど、資料αというのにちょっと書いてまして、右下に書いてあるαというのを見てほしいんですけど、例えばポーランドでは経済政策に対する労働者のデモとか、もう一つ東ドイツの民主化要求のデモというのが、この二つ以外にもですね、ハンガリーであるとかやその他の国々でもおこりました。とりあえず訳も書いてあるんですけれども、保健衛生制度のための資金とか、憲法の擁護、それから、これはシュタージという、秘密警察の特権はいらないとか、そういうことが書いてあります。これはいわゆる民主化を求める運動です。上の写真のほうはどちらかというと市場経済の運用を求めるデモ、まあ、こういうふうなデモが頻発する。で、まあ、結果として、下の方に結果と書いてあるところなんですけど、東欧では市民が政権を樹立する（板書する）、市民が政権を樹立ということと、それと東側という、こちら側の中心となっていたソ連自体が1991年の夏には崩壊をしてしまいます。

T 21 あと1分ぐらいです。

S T 22 あ、はい。それで結末としては、東欧では市場経済の導入、ソ連のロシアを中心とした旧ソ連邦諸国がなんとかを形成と書いてありますが、これはCISという省略でも知られますが、これは独立国家共同体という、まあこういうふうなですね、これはもともとソ連を構成していた、ソ連というのはロシアを中心とした大きな国のグループ

でした。それが一回わかれたんですが、ソ連よりは弱いもの、そういうふうなものを形成して、その結果、資本主義体制をとる。まあ、ソ連が消滅してしまいましたので、社会主義体制が終結することによって、結果として冷戦というものが終わってしまった。これが冷戦体制の崩壊です。もう時間がないので、多極化の方をみるのは避けませんが、東西ドイツでの（例）のなんとかの崩壊にというところに行きたいと思いますが、これは直接は関わりないのでAとしておりますが、これは、なんの崩壊か。真ん中の列の一番後ろから二番目の方。これはなんの崩壊かわかりになられますか。（例）の東西ドイツでのなんとかの崩壊。

G23 ベルリンの壁。

S T24 はい、そうです、ベルリンの壁。ベルリンの壁の崩壊。これはよく象徴として使われるので、東西冷戦の終結というか、冷戦体制の崩壊の象徴として用いられるものでちょっと書いておきます。本当はこの次の②の02の多極化にいきたいんですけども、時間がここで切れましたので終わらせて頂きたいと思います。

受講生全員25（拍手する。）

T26 はい、それではコメントをお願いします（この後、受講生は約5分、授業の分析・考察表にコメントを書いている）。

【板書事項】

今日の国際社会②

Key-Words . 冷戦体制崩壊. 多極化 01

	冷戦崩壊 ④	⑧独立国家共同体
①アメリカ合衆国 ソ連	理由. 個人の権利<国家利益	A ベルリンの壁
資本主義体制 vs ②社会主義体制	⑤福祉国家体制	
西側	東側	⑥共産党
③冷たい戦争	⇒⑦市場経済の導入	
	東欧. 市民が政権を樹立	

2. 模擬授業の検討過程

本講義では毎回、模擬授業について以下の観点ごとに自由に記述する授業分析・コメント表を配布し、5分～6分程度で書かせている。

①授業内容について

観点例（話題・中心テーマの適切性、取り扱う内容の量的適切さ、教材の活用状況、内容の理解のしやすさ・難易度、イメージ化の有無、など）

②指導方法・授業のすすめ方について

観点例（説明の仕方、声の大きさ、落ち着き、間のとりかた、発問のタイミングや適切さ、熱意など）

③生徒への対処について

観点例（質問一応答、確認、理解の促進、コミュニケーションの質・言葉遣い、余談、緊張感の喚起、緊張感の低減への努力、など）

④板書について

観点例（内容、量、スピード、正確さ、工夫、わかりやすさ、など）

⑤その他（自分ならばこの授業ではこのように進めてみるといった「代案」など）

T1 それではいいでしょうか、それでは言ってもらおうと思います。それではG君から。

G2 冷戦の問題を扱って、冷戦が起こったから今の現代、多極化の時代に入ったという、テーマとしては大切なところなのかなと思いました。でも10分で終わらせるにはこの内容はすごく難しいのではなかったのかなとも思いました。説明はすごく丁寧にされていたと思いますけど、落ち着いていたと思いました。よく発問を、発問というか質問をされていたと思います。問題としてはすごく難しいので、考えさせるような内容があったらと思います。

T3 例えばどういうところで考えられますか？

G4 ちょっと思い浮かばなかったんですけど、最初から、僕だったら冷たい戦争ってどんなことだと思うと聞いて、生徒に言ってもらって冷戦に結びつけてもいいのかなと思いました。

T5 はい、わかりました。それではHさん、いますか。

H6 はい。資料が写真とか図とか色々あってわかりやすかったです。声とか、ちょっと、しゃべり方はちょっと早かったけど、ちゃんとしていたから聞きやすかったです。次々と生徒を指していったので、眠くならないで授業を受けていられました。板書がすごくうまいなと思いました。図を書きながら図の単語に番号を入れたりして、時間も短縮されるし、流れとかもわかりやすくて、自分が早くきれいに書けないので、早くきれ

いに書けているのはいいなと。

T 7 まあ、構造的に書きながら、そこに番号を振れば、こっちのプリントの番号ともなるので節約できるということ。えー、では続いていきましょう。Iさん。いない、じゃJ君。

J 8 落ち着いていてよかったと思います。発問がなんか多いのはいいんですけど、なんというか、ちょっとノーヒントだったんで難しかったんで、教科書かなんか読ませてからじゃないと、ちょっとわかりにくいかなと思います。あと、西側諸国と東側諸国というのがあって、地図かなんかのせて、こことこの国がこっち側で、この国が東側というふうにやったら対立の構図がわかりやすいと思います。

T 9 えー、考えてみたら僕の担当の別の授業でも、社会科教育法でこの冷戦があったよね。だれがやったんだっけ。ありましたよね、まあ高校の部分は複雑になって難しいですけどね、まあ東側、西側というのであれば、だいたいそんな感じなのかなあ、とイメージ的につかまえることが必要だと思います。社会科教育法でもね、確かに。それでは続いてKさん。

K 10 冷戦を10分で扱うのは難しいんじゃないかと思いました。単語だけの説明が多かったので、少し高校生レベルには難しいんじゃないかと思いました。声が丁寧だったのでよかったと思います。

T 11 例えば、どういう用語が難しいと思います？

K 12 市場経済と聞いて、高校生が簡単に思い浮かべられるかと。（「むずかしいね」という他の学生のささやきがある）

T 13 あー、そう。大学生でも市場経済とって、難しいことがあるかも知れませんがね。まず、市場（いちば）じゃないというところから始めないといけない場合もあるぐらいで。市場経済というのはそんなに簡単に理解できるのかな、と。えーではLさん。

L 14 はい、冷戦体制の崩壊というのは今の国際社会の土台となる知識なので、高校生でこんなに詳しくやってたらとてもいいと思います。資料で写真に和訳までつけてあるので、高校生にすごいイメージがしやすいんじゃないかと思いました。言葉づかいも、黒板もすごく丁寧でよかったと思います。

T 15 まあ、冷戦という箇所がね、意義みたいなことを言ってくれましたけども、これはほんとその通りですね、日本が今、色々と、それこそ憲法9条じゃないですけども（注…これは、前回の模擬授業で扱われていた内容であった）、国際貢献だとか、こう、急に求められたり、立場が未確定だったりするのも、冷戦がやはり崩壊したことに

もかなり影響があったというわけですね。だからかなり大事な箇所なんだという意義をね、説明してくれたかと思います。それでは続いてですね、M君。

M 16 はい。まず解説が非常に丁寧でわかりやすかったと思います。発問が多くて自分いつ当たるかと、そわそわしながら、終始緊張しながら、集中して授業を受けることができました。あと、板書についてですけども、もう少し色分があってもよかったんじゃないかと、大事な①とか②とか、そういう答えになっているところを、色分けしたりとかしたら、もっと大事な箇所がパッとみて一目でわかったらよかったと思います。あと冷戦といえばアメリカとソビエトの軍事、軍事兵器の開発競争というのがかなりあって、すごいエスカレートした、お互いの競争とかがあったりしたので、そういうのを織り交ぜたりしたら、いかに冷戦が過剰な競争だったかというのを説明できるんじゃないかと僕なりに思いました。あと、あの導入とかで、一応、冷戦の話で東西ドイツのベルリンの壁のことを触れているんで、たぶん、今の子どもだったらなんか、昔カップヌードルのCMで永瀬正敏がベルリンの壁と彼の姿を合成してパーンパーンとやっている姿とか、CMとかあったんで、そういうパンフレットとか、なんか、みている子がいたら、こう少しはそういう話を振ったらくいついてくるかな、と思いました。

T 17 今、最後、日清食品のCMの話をしてきましたが、あの日清食品というのは変わっていて、面白いCMをよくやるんですが、今もノーボーダーだかそんなことをやって、あれは花畑みたいところに戦車の残骸がおいてあって、そばでヌードルを食べているという、まあ、あのカップヌードルの宣伝としては、すごく変わってるんですけど、そういう意味で言うとね、妙に一貫したものがあるような、ないような。まあ、ふざけたCMも多いんですけど、日清食品のはCMとして注目できるものがあると私も思います。まあ、これは経済なんかのマーケティングなんかにも使えるかも知れませんがね。はい、それではN君。

N 18 まず最初にプリント見たときにこれを自分でつくられたのかと、それにびっくりしました。で、あとは話し方とかもかなり落ち着いているというか、はっきりいうと、かなりうまいなと思って聞いていたんですけど、流れとかもあるし、実際扱っている内容が難しいというか、かなり砕いた言い方とか難しいと思うんですけど、それでもあまりもう細かいことまではあまりいわずに、間単に流されるとこは流して、大事なところは力をいれる、という話が、なんか話が僕はできていたような気がします。あとは生徒に対する質問なんですけれども、誰か言われていたようにですが、知識だけしか聞いてなかったんで、質問で、いろんな形があると思うんで、まあ、こういう話の時には知識

じゃなくて質問、内容を、本人にこれみてどう思う、といったように、例えば、共産党とかでこういう考え方があるけど、こういう考えかた君どう思う、と、なんか知識とは関係なく、本人に考えて答えてもらうような質問というものもあるかなと思いました。

T19 まあ、その立場について広く考えさせるとかね、わかりました。はい、プリントの作成みたいなものについてもあとで説明があったらいてもらいましょう。では、O君いきますか。

O20 黒板をバランスよく全体を使ったんですけど、まあ、色をもうちょっと使ったらいいかなと思いました。冷戦のテーマというのは歴史的な背景とか地理的な背景とか、すごい総合的になるところで難しいところだと思うので、この前回の復習という前提になっているけど、ここを詳しく話すのもいいのかなと思いました。資本主義とか社会主義とかというのは、なかなか言葉だけじゃわからないところがあるので、そこを説明して、その上で、なんで考え方に衝突があるのかと考えさせるというのも一つのあれじゃないかなと思いました。以上です。

T21 はい、いま言ってくれた資本主義、社会主義の理解というのも大学に入った後、いろんな、まあ経済とかでのキーワードですからね、しっかり理解する必要があるでしょうね。それから、さらにいうと、社会主義と共産主義は似た言葉ですけど、似ててどこが違うんだとか、そういうこととかは生徒とか早いうちから認識ができていてその後の学習がかなり進展するキーワードと思うので、そういうこととかですね、考えたらいいと思うんですけどね、みなさんどうですかね。説明できますか、そう簡単ではないですよ。それでは続いてP君。

P22 内容が難しいところだったと思いました。でー、あの、福祉国家体制と共産党独裁国家体制っていう難しい言葉が出てきて、言葉の説明はされていたんですけど、格差への強い不満とかいって、どんな不満があったのかなあ、とかもうちょっと具体的に話してもらえれば、むずかしい言葉もすんなり受け入れられたのかなあという感じをうけました。ちょっと、板書はよくまとまっていると思ったんですけども、ちょっと雑なところが目立つかなあと思いました。以上です。

T23 はい、それではQ君。

Q24 はい。大体似ているんですけど、発問が高校生にしてはレベルが難しいかなと思いました。ちょっと、今日、みんなに当てて答えられていたけれども、この中にもけっこう当ててはしくないと考えた人とかが多いんじゃないかと、僕も含めて思いました。あと、言葉使いが非常に丁寧だったのが印象的なんですけど、逆に丁寧すぎたらなめられ

る、高校生とかだったらなめられる心配もあるんですけどもうちょっと威厳をもって話されてもいいんじゃないかと感じました。あとせっかく作ってくれた資料なんですけども、もうちょっと書くスペースが、広く取ったほうが独立国家共同体とかベルリンの壁っていうのはちょっと、字数が多い割にはカッコのスペースが小さいので、もうちょっとそのへんを考えてもよかったかなあと思いました。以上です。

T25 はい。みなさんどうでしたかね、番号の中味あってましたかね。私もいくつかわからないのがありましたね。なかなか難しかったということだと思いますね。えー、あと、たしかに穴の中に入らないのがあるよね、独立国家共同体は確かに入りませんしね、そこら辺、ちゃんとこう書けるスペースをとらないとこまると。大学のプリントなどでこんなものよくありますけど、高校などきちんとしておかないと高校生がやる気をなくしたりする可能性がありますので注意して下さい。それでは授業者のST君にコメントをしてもらいましょう。

S T26 まず、10分は短いなと実際にやってみてつくづく思いしらされました。ほんとは02の方にも行きたかったんですけど、もうちょっと上のほう、冷戦体制の崩壊の方をやってあげよかったですかねと今は思います。テーマは冷戦のところをやりようと思ってたんですけど、ドラスティックな方をやりようと思って冷戦の崩壊を選んだんですよ。それでこじつけみたいな形で前回の復習というのをつくっちゃって、結果としてあまりよくなかったかなあ、と思いました。黒板も自分でみて字がめっちゃ粗いので、すぐく直さないといけないなと思いました。沢山の指摘があったんですけど、カッコが小さいなというのは、最後に気がついたんですけど、これは作っているときに間に合わなくて失敗してしまったなあと思います。

T27 いいですかね。あと、最後のあたりで出ていた言葉使い、丁寧な気持ちはわかるけども自信をもってね、はっきりと。「ですます」口調でもかまわないと思いますが、きっぱりと言っていくことが大事だと思います。はいそれではですね、まあ、これで全員、模擬授業も終わったということで。これまでもいってますが、前回は課題を提案してありますが、この授業は模擬授業とコメントとレポートで評価をします。レポートはこの授業の中で行われた模擬授業、自分のでもいいし、他者のでもいい、それを50分の正規のものにして、その指導案を出すことにしています。1時間ものでいいです。単元観などは、そういうものは書けないと思うので1時間について、目標、あるいはテーマとか教材、どんなものを使うとかね、導入、展開、整理、その表を最もメインにしたやつを作して下さい。

3. 本模擬授業について受講生が書いたコメントの一部

(各項目別にまとめている。なお、類似の意見は整理して、特徴の明確な数個に限定して掲載している。)

(1) 授業内容について

(肯定的な意見)

- 前回の復習を最初にやっていたので授業に入りやすくよかったと思いました。冷戦の終結がどのようにおわっていったか分かりやすく説明されていたと思います。
- 時間は足りませんでした、一つ一つをていねいに追求して説明できていたため、範囲を冷戦体制の崩壊だけにしよればかなりよい授業だったと思います。教材がよくまとめられていて、工夫が見られました。こんなプリントなら生徒も活用すると思います。
- 冷戦について、もっと知りたいという欲求をかきたてられる授業になっていたと思います。

(課題を指摘している意見)

- 東西対立の様子がわかるような地図をのせたりしたら、もっとイメージしやすかったと思う。
- 冷戦体制崩壊という単元は中学校でも学んでおり、高校生はすでに知っていることであるが、少し難しい単語が出てきたりするので、その言葉を説明しながらすすめるべき。
- 発問が難しいと思う。レベルが高すぎ、高校生にはわからない。難しい言葉がたくさんでてきて途中、集中力がなくなった。

(授業者のコメント)

- 結果としてテーマえらびは失敗した。(もっと内容をしよれば良かったと思う。)

(2) 指導方法・授業の進め方について

(肯定的な意見)

- おちついて説明していたので聞き取りやすかった。図式化した説明がたいへんわかりやすかった。
- 説明の仕方は落ち着いておこなわれており、聞く側は大変聞きやすかったです。また、言葉が丁寧だったのでよかったと思います。
- 説明の仕方がとても丁寧で落ち着いていてよかったと思います。生徒へもできるだけ

答えられるようにしてくれていたと思うし、スムーズに進んでよかったです。

(課題を指摘している意見)

- 声をはきはきとしていて、ききやすかったです。進め方が少しはやいかなと思いました。答えを書いている時とかに大事な部分を言ったりすると、ちょっとついていけませんでした。
- 落ち着いて授業にのぞんでいたと思います。しかし、スピードが一定で早く流れすぎていたと思うので、もっとメリハリをつける必要があると思います。また、対立から崩壊までの説明が少し不足していたので、対立、東西比較、崩壊のどれか一つにしよってやると、もっと内容が深くなり理解も深まると思います。
- 話し方が丁寧だったので聞き心地が良かったが、もう少し強弱をつけて話すと思う。
- 発問が多いのはよかったと思うけど、誰でも答えられるぐらいの難易度にした方がよかった。できれば当ててほしくないと思った人も多いはず。

(授業者のコメント)

- 声はそれなりに大きく出したつもりですが、早口だったと感じます。前から早口で喋るのがくせになってしまっているので、ここは改善しなければならず、意識はしているのですが…。導入が唐突すぎる。

(3) 生徒への対応について

(肯定的な意見)

- 丁寧な言葉づかいでした。とても詳しく説明していたので分かりやすい。
- 生徒に答えさせる場面も多く、いい授業であった。
- 質問が多かったので、めりはりのある授業でした。少し難しいと思いましたが、実際の授業では教科書や資料集もあると思うので、予習をさせる、調べさせるという意味で、このくらいの難度のほうがよいのかも知れません。
- よく質問されていて、しかも難しいものばかりだったので、良い意味で緊張感が出て良かった。

(課題を指摘している意見)

- たくさん当てて答えさせていたのが印象的でしたが、当てた内容が知識のものばかりだった点が残念です。考えさせる問いかけも入るとよかったと思いました
- プリントのカッコ埋めを中心にすすめており、カッコの言葉を聞く一問一答式の形式

のやり方で全て行われた点がよくなかったです。カッコの中でも難しい言葉があり、生徒に聞いても難しいから「わかりません」といった返答をされがちになると思います。

- ・「…ですが」というフレーズが多かったので、話を分かり易くするためにも断定「…です」を使うと良いと思う。
- ・もう少し言葉遣いをかみくだいてもいいと思う。あくまで相手は高校生なので、そこまで丁寧にしゃべると逆になめられる恐れもあるので、もう少し“いげん”を持って良かったと思う。

（授業者のコメント）

- ・質問は沢山出したつもりだったのですが、少し考えさせる間が少なかったかも知れません（穴埋めばかりで）。一方的に話をすすめすぎたかもしれません。生徒（聴いている側）まで意識が回りませんでした。

（4）板書について

（肯定的な意見）

- ・うまかったです。図をかきながら、答えの単語に番号を入れたりして、時間も短縮されているし、きれいで見やすかったです。はやくきれいにかくのは、うらやましいです。
- ・板書は図を使っており、また、字も大きく見やすい板書でした。また、作成プリントがよくまとまっており、テストの時など、また振り返るには大変よいものでした。
- ・文字が大きく、勢いがあるので好感がもてました。図を使って上手に黒板を活用していると思います。また、黒板を書きながら話していたので、沈黙になる時間が少なくスムーズな授業が展開できていました。

（課題を指摘している意見）

- ・手で字を消さなくてもいいのでは。色を使った方が良かった。
- ・黒板全体をバランス良く使っていたと思う。色分けをするとさらに良くなると思う。もう少し丁寧に書くと良いと思う。
- ・字と字の間が狭く感じる。ところどころ雑になっている。資料プリントのかっこをもっと少し大きくした方が良かった。

（授業者のコメント）

- ・字があまりにも汚いのでガク然とした。もっと黒板の形を前もって自分で考えておけ

ば良かったと、後悔している。

（5）その他（自分だったらこうするという「代案」など）

- ・一度、冷戦について学んだ人であれば、授業を聞いてもわかると思うが、単語だけ説明されても分からない人はいると思う。なぜ、崩壊するに至ったかをもう少し説明した方がいい。
- ・「冷戦」に関して、アメリカとソビエトのエスカレートしていく軍事兵器開発競争にも触れていきたい。
- ・主な民主化運動と、その結末を詳しく紹介する。

4. 考察（筆者による）

○模擬授業について

- ・担当者は模擬授業の展開を大変考えており、細かい点もよく説明して、授業を進めていた。
- ・説明内容は10分では少し多すぎたように思われるが、必要な事項がおさえられていた。
- ・プリントは非常によく構成されていたが、前半だけで終わったように、内容がやや多かった。またカッコとカッコの間が、答えを記入するには短すぎるころがあった。
- ・板書構成は、プリント資料との関連を踏まえて、よくできていた。
- ・説明の口調が丁寧なのはよいが、やや「丁寧」すぎて、指示や内容理解が曖昧になっていた。

○授業への受講生のコメント（発言・文書）について

- ・「冷戦」体制の指導の意義や、西側と東側の国々の違いの明確化、難しい用語の問題など、筆者（田代）も十分に気がつかない点について指摘が出ていた。
- ・指導内容や板書に関しては比較的、肯定的な意見が多かったが、指導方法や生徒への対応では課題指摘も多く出ていた。特に、指導の口調が丁寧すぎると生徒に甘く見られるという指摘があった。ただ、この指導の口調については丁寧でよかったという指摘も、特に女子学生からあり、受講生による評価の違いをどう考えるかという点が、今後の課題になる。
- ・軍事兵器の開発競争やCMの活用など、生徒の興味を自分なりの引く工夫についても意見が出ているが、これは受講生の参加意識の高さを反映する貴重なものと思える。

○筆者（田代）の指導について

- ・授業への受講者のコメントについて、その具体的な内実を明らかにしようと質問しているが、1回のみで収めているので、掘り下げが十分できていない。
- ・当日の講義の1時間前までに資料を提出させていたので、模擬授業の内容についての詳細な調べができず、筆者のコメントが一般的なレベルに留まっている。この点は来年度からは、少なくとも1日前までには資料を提出させるなどして、改善をはかりたい。
- ・CMの話などに悪乗りして、時間もあまりないのに話しすぎて焦点を自らズラしている（T17 発言）。今後、自戒したい。
- ・受講者相互のコメントを関連づけて構造化したり、まとめることが十分にできていない。個々の発言に対応するのに追われて、全体の流れがよく把握できていない。
- ・受講者のコメントが広範囲に亘り、かつ想定外の「ユニークな意見」も出るので、模擬授業に対して最後の適切なまとめができていない。検討する内容をある程度、限定しておくなど工夫が必要である。
- ・日頃、生徒一人ひとりの個性をとらえて、よい点を伸ばすようにと指導しているのであるが、この模擬授業の良い点についてはあまり述べておらず、不十分な点のみを短く指摘している。今後は、模擬授業者の授業への意図やねらいを授業に先だって明確にしておく必要がある。そのことで、より適切な評価ができると思われる。

○講義（模擬授業の指導）の記録化と分析の意義

- ・模擬授業の実態と、それに対する受講生の反応・意識が明確になり、模擬授業のあり方をどうするかという、今後の指導の課題についてより深く検討することができた。
- ・さらに、模擬授業への指導を記録化して自己分析することで、例えば、学生による授業評価などで（他者から）指摘されてもなかなか受け入れ難いと思われる、自分（筆者）の指導の問題点（模擬授業で扱う内容への事前学習の不足、発言の些細な点への不必要なこだわり、学生のコメントへの対応の弱さ、など）について自覚することや、さらに指導改善への意思を持つことができた。
- ・この授業実践は、西南学院大学の学内研究会である、第21回福岡授業研究交流会（2005年3月5日）で発表したが、その際、模擬授業の際のテーマの選び方、公民科教育法Ⅰと公民科教育法Ⅱとの内容面での関連のあり方、西南学院大学の学生の一般的な受講態度（長所や課題）、などについて参加者の方から貴重なご意見・ご助言を頂くことができた。これらのご指摘は今後の模擬授業の改善や教職課程のカリキュラ

ムの再検討にも活かすことができるものであった。このように、大学でも自らの記録をもとに授業研究を同僚集団で行うことには大きな意義があることを再認識させられた。

〔注〕

- 1) 2005年3月5日に九州大学において行われた、教育現場におけるリーダー養成のシンポジウム「行政と大学の連携による高度専門性を有する指導者養成の展望」での戸渡速志氏（文部科学省）の配布資料には、大学での教員養成課程で現在必要とされる教師の実践的力が養成されていないとの指摘があった。
- 2) 2004年5月14日の福岡県大学・短期大学教育実習・介護等体験連絡協議会の研修会で配布された、福岡県D中学校の校長先生の資料にも、教育実習に向けて、事前指導段階における指導案作成と指導技術（板書の練習、話し方、聞き方などの立ち振る舞いなどを中心に）の指導が強調されていた。また、経験的にいっても、この模擬授業の充実は教職課程担当の教員が実習校訪問の際、現場の先生からよく要望されることである。
- 3) 日本教師教育学会の最近までの年報（第1号～第13号）をみても、このような研究論文は非常に少ない。その中で、白井勝美氏の論文「教職課程における教育実習事前指導としての『教壇模擬演習』」日本教師教育学会年報第5号 1996年 110頁～128頁、は非常に意欲的な模擬授業の取り組みの報告である。ただし、本論文も模擬授業の方法・手順については詳しく述べているが、記録に基づいた、実際の模擬授業やその協議の過程の分析はない。

(模擬授業で配布されたプリント)

■今日の国際社会②■

■本日のKey-Word：冷戦体制崩壊 多極化
 ■本日の目標：現在の世界状況が出来上がるきっかけとなった冷戦体制の崩壊と多極化について理解しよう

前回の復習

(1))を中心とした**資本主義体制(西側諸国)**と、ソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)を中心とした
 (2))**体制(東側諸国)**の武力を用いない対立を(3))という。

01:冷戦体制の崩壊

⇒ソ連、東ヨーロッパ(東欧…特に**経済相互援助会議(COMECON)**加盟国)の(2)体制の崩壊から始まる。

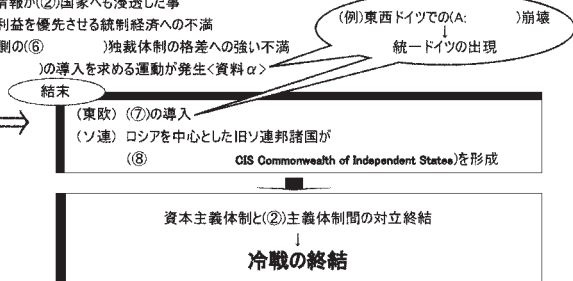
:理由:

- ・西側の繁栄した資本主義社会の情報が(2)国家へも浸透した事
- ・個人の(4))よりも国家利益を優先させる統制経済への不満
- ・西側の(5))体制と、東側の(6))独裁体制の格差への強い不満

⇒ソ連、東欧諸国での民主化、(7))の導入を求める運動が発生<資料α>

:結果:

- ・(東欧) 市民が政権を樹立
- ・(ソ連) **ソ連邦消滅**(1991年夏)



02:多極化

冷戦体制崩壊後→(4))の動き

:例:

- ・(10) **EU European Union**連合の形成
- ・東欧、旧ソ連邦諸国での(11))運動
- ・その他地域連合の形成、発展<資料β>

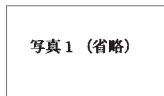
⇒このように、世界は(1)、ソ連を中心とした**二極間体制**から、各地域が多様な連合形成や発言力強化に努める(8)体制へと進行して、現在に至っている。

<資料β>様々な地域連合

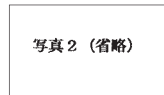
地域	統合単位	名称(数字は加盟国数)
欧州	全般	EU欧州連合: European Union; Europäische Union; [Union européenne]: 25
旧ソ連	全般	CIS((8)): Commonwealth of Independent States): 12
東南アジア	経済	ASEAN(東南アジア諸国連合: Association of Southeast Asian Nations): 10
北米	経済	NAFTA(北米自由貿易協定: North America Free Trading Area): 3
中南米	経済	MERCOSUR(南米南部共同市場: Mercado comun del Sur): 4
アフリカ	政治・経済	AU(アフリカ連合: African Union): 53

※全般…司法、政治、経済、軍事、等多岐にわたった統合ないしは協力を目指す
 ※EUは2004年より加盟国が10国増加した主として東欧圏

<資料α>東欧諸国での民主化運動



ポーランド政府の経済政策に抗議するデモ(ワルシャワ)



東ドイツの民主化要求デモ(東ベルリン)

- (訳)
- “保護衛生制度の為に資金を”
- “憲法の擁護を”
- “Staat(国家保安省…秘密警察)に特権はらない”
- “社会弱者救済制度の為に資金を”